

熊本市 感染症発生動向調査 速報

●インフルエンザが引き続き警報レベルです●

感染症発生動向調査で、熊本市の第6週(2月6日～2月12日)の定点医療機関あたりの患者報告数は、前週36.20人  今週23.52人(定点数25ヶ所、患者報告数前週905人  今週588人)と前週から減少しましたが、引き続き感染予防に努めましょう。

※インフルエンザにかかった時に注意して欲しいこと※



小児、未成年者では、インフルエンザの罹患により、急に走り出す、部屋から飛び出そうとする、ウロウロと歩き回る等の異常行動を起こすおそれがあるので、自宅において療養を行う場合少なくとも発症から2日間、**小児・未成年者が一人にならないよう配慮しましょう。**

[※厚生労働省インフルエンザQ&Aから引用 詳しくは外部リンクを下のほうに載せています。]

高齢者や、年齢を問わず呼吸器、循環器、腎臓に慢性疾患を持つ患者、糖尿病などの代謝疾患、免疫機能が低下している患者では、原疾患の増悪とともに、呼吸器に二次的な細菌感染症を起こしやすくなることが知られており、入院や死亡の危険が増加します。

小児では中耳炎の合併、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。近年、幼児を中心とした小児において、急激に悪化する急性脳症が増加することが明らかとなっています。厚生労働省「インフルエンザ脳炎・脳症の臨床疫学的研究班」(班長:岡山大学医学部森島恒雄教授)で行った調査によると、毎年50～200人のインフルエンザ脳症患者が報告されており、その約10～30%が死亡しています。臨床経過や病理所見からは、ライ症候群とは区別される疾患と考えられますが、原因は不明です。現在も詳細な調査が続けられています。

[※国立感染症研究所インフルエンザから引用 詳しくは外部リンクを下のほうに載せています。]

期 間		平成29年 第5週		平成29年 第6週	
		1/30～2/5		2/6～2/12	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ 		905	36.20	588	23.52
RSウイルス感染症		1	0.06	4	0.25
咽頭結膜熱(プール熱)		5	0.31	4	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		32	2.00	41	2.56
感染性胃腸炎 		151	9.44	98	6.13
水痘(みずぼうそう)		5	0.31	9	0.56
手足口病		13	0.81	15	0.94
伝染性紅斑(りんご病)		1	0.06	2	0.13
突発性発しん		3	0.19	7	0.44
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		3	0.19	2	0.13
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		17	1.06	7	0.44
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		14	2.80	11	2.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		2	0.40	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.20	1	0.20